科目名	心理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychology			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月	時　限	3･4

担当教員	内藤　みなみ	実務者経験	臨床心理士・公認心理士として、クリニック・大阪府立学校スクールカウンセラーとして勤務の後、大学にて学生相談センターで業務に就かれている。

学習内容	心理学に関する基礎的な事項について学ぶ。また、適宜、体験的ワークに取り組む。
到達目標	心理学に関する基礎的知識を獲得し、臨床現場や日常生活における出来事を心理学的視点から捉えることができる。 また、体験的な取り組みを通して、心理学的事象や自己についての理解を深める。

準備学習 時間外学習	知識的な内容について復習する。また、授業内で行った体験について振り返る。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末テスト100点で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心理学の概要	概要【心理学の歴史・心理学の諸領域】 心理学の歴史やその領域について理解し、心理学の概観をつかむ。
2	学習・記憶	学習心理学・認知心理学【学習・記憶・認知・行動・条件づけ・動機づけ】 学習や行動について理解する。また、認知や行動に着目し、その変化について理解する。
3	集団・社会	社会心理学【集団・社会・同調・認知的不協和・認知的均衡】 集団や社会における現象について、社会心理学的視点から理解する。
4	人格・発達	人格心理学・発達心理学【パーソナリティ・生涯発達】 パーソナリティの捉え方や生涯発達における各発達段階の特徴について理解する。
5	臨床・援助	臨床心理学【精神分析学・行動主義心理学・人間性心理学】 臨床心理学における多様な立場について理解する。
6	ストレス マネジメント	ストレスマネジメント【ストレス・コーピング・リラクセーション】 ストレスに対するマネジメントやコーピングについて具体的に学ぶ。
7	まとめ	振り返り
8	試験	期末試験

科目名	保健・体育学Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	32	単　位	1
学　年	1	学　期	通年	曜　日	水	時　限	3･4

担当教員	福井 竜一	実務者経験	2005年～2008年　フィットネスクラブ『ティップネス』 2012年～2015年『コナミスポーツクラブ』パーソナルトレーナー 2008年～　運動支援会社『Step Forward』フィジカルトレーナー

学習内容	運動生理学やトレーニングの方法、施設（マシン・器具）を実技で、傷害や栄養学等を講義で学ぶ。
到達目標	文部科学省が実施する体力テストを参照して、同年齢の各種目の全国平均値を上回る。

準備学習 時間外学習	自主的・定期的な基礎トレーニングの継続が望ましい。 体力テストの種目では、苦手・弱点種目の克服が望ましい。
使用教材	参考資料として、『ストレングス＆コンディショニング』（大修館書店）
留意点 備　考	講義の理解度をチームワークで実施、ペーパークイズの実施

成績評価	前・後期、各１回、体力試験100%で評価

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	講義と実技の迅速な切り替え	自己紹介/施設（マシン・器具）の使用方法の説明。　実技ースクワット・腕立て伏せ
2	〃	〃
3	効果的な実技の習得	講義ー有酸素運動・無酸素運動。実技ー肩甲骨の動き・骨盤の動き
4	〃	〃
5	チームワーク・規律	講義ーストレッチとトレーニングの順序　実技ー体力テストの種目
6	〃	〃
7	迅速な行動	体力テスト（腕立て伏せ・腹筋・懸垂・握力・垂直跳び・立ち幅跳び・背筋力等）
8	〃	〃
9	迅速な行動	体力テストのレビューとトレーニングの考案、目的に応じたトレーニング
10	〃	〃
11	思考・発案・表現	講義ートレーニングメニューの作成・発表・実施
12	〃	〃
13	考えながら身体を動かす	フリーウェイトトレーニングと体力テストへの準備
14	〃	〃
15	実技に活用する	体力テスト　実技（現場）へのフィードバック
16	〃	〃

科目名	解剖学・生理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Anatomy･Physiology			総時間数	60	単　位	4
学　年	1	学　期	前期	曜　日	金	時　限	1･2

担当教員	村上秀明、西川悠里	実務者経験	村上秀明：大阪大学歯学部附属病院放射線科と医学部附属病院放射線治療科にて32年間の臨床経験。 西川悠里：大阪大学歯学部附属病院放射線科で5年間、医学部附属病院放射線治療科にて5年間の臨床経験。

学習内容	救急救命士となるにあたって必要な人体の解剖学と生理学を学ぶ。また、救急救命活動に必須となる人体の解剖学、救急救命処置の根源となる人体の生理学を習得する。
到達目標	人体の解剖学的諸構造と生理学的機能について、適切な解剖学用語と生理学用語を用いて具体的に説明できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	オリジナルサブノート・救急救命士標準テキスト第11版・からだの地図帳
留意点 備　考	

成績評価	終講時の筆記試験で60%以上正解すること

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	人体を構成する要素	細胞・組織・臓器の構造と役割
2	人体を構成する要素	体液の組成と役割について学ぶ
3	体表からみる人体の構造	解剖学用語を学ぶ
4	体表からみる人体の構造	体表から観察される人体の構造を理解し、その名称を習得する
5	神経の解剖・生理	中枢神経について、その構造と役割について学ぶ
6	神経の解剖・生理	末梢神経について、その構造と役割について学ぶ
7	感覚器の解剖・生理	視覚器、聴覚器、平行感覚器について、その構造と役割を学ぶ
8	感覚器の解剖・生理	嗅覚器、味覚器、皮膚感覚器について、その構造と役割を学ぶ
9	呼吸器の解剖・生理	呼吸器の構成と役割を理解する
10	呼吸器の解剖・生理	呼吸調整のメカニズムを学ぶ
11	循環器の解剖・生理	循環器の構成と役割を理解する
12	循環器の解剖・生理	循環制御のメカニズムを学ぶ
13	消化器の解剖・生理	消化器の構成と役割を理解する
14	消化器の解剖・生理	栄養素の運搬と消化のメカニズムを学ぶ
15	泌尿器の解剖・生理	泌尿器の構成と役割を理解する
16	泌尿器の解剖・生理	尿生成のメカニズムを学ぶ

17	生殖器の解剖・生理	男性生殖器と女性生殖器の構造と役割を理解する
18	生殖器の解剖・生理	月経のメカニズムを学ぶ
19	内分泌系	内分泌器官の構造を学ぶ
20	内分泌系	各種ホルモンの作用部位と効果を学ぶ
21	血液と免疫	血液の組成、止血のメカニズムについて学ぶ
22	血液と免疫	アレルギーを含めた免疫システムについて学ぶ
23	骨、筋、関節	骨と筋の構造と名称を習得する
24	骨、筋、関節	関節と人体の役割について学ぶ
25	皮膚	皮膚の構造について学ぶ
26	皮膚	皮膚の役割について学ぶ
27	生命の維持	栄養と代謝などホメオスタシスに関わるメカニズムを学ぶ
28	生命の維持	呼吸、循環などホメオスタシスに関わるメカニズムを学ぶ
29	まとめとテスト	テストゼミ形式の復習、国家試験問題の解法を学ぶ
30	まとめとテスト	終講時のテストを行う

科目名	生化学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Biochemistry			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	前期	曜　日	木	時　限	1･2

担当教員	酒井　学	実務者経験	医学博士(生理系) 1973-2005まで大阪大学にて研究助手

学習内容	ヒトの生命現象を元素・分子レベルでの化学的領域と，細胞・個体レベルでの生物学的領域を統合的に幅広く学習する．それにより疾患の成立原因と回復過程を生化学的に理解し，救命救急士としての基礎的知識の習得を目指す.
到達目標	生命維持のための代謝、代謝異常(糖代謝異常，アミノ酸代謝異常，脂質代謝異常）とその疾患について理解できる。ビタミン異常，そのほか電解質異常，栄養障害など理解できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト　第11版
留意点 備　考	中間でミニテストの実施

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	生化学とは	高校までの履修度を把握して、化学・生物に必要な事項の整理が出来る 化学・生物で使用する用語を知る
2	栄養障害	TCAサイクルを理解する(エネルギー産生ということで)
3	代謝障害	糖尿病、低血糖、メタボリックシンドロームの概念、ビタミンの異常など
4	体液と電解質異常	体液の組成が理解できる
5	酸塩基平衡異常	PHの基礎知識、アシドーシス・アルカローシス
6	内分泌異常 ミニテスト	ホルモンの合成場所と働きと病気について理解する
7	総まとめ	全体的に理解不足のところを解消する。
8	テスト	

科目名	病理学・法医学（病理学）			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pathology･Forensic Medicine(Pathology)			総時間数	18	単　位	法医学とあわせて2
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月	時　限	1･2

担当教員	酒井　学	実務者経験	平成18年8月1日から平成20年10月15日まで国立法人神戸大学医学部附属病院中央検査部、平成20年10月16日から現在まで国立法人大阪大学歯学部附属病院検査部にて臨床検査業務を担当している。令和5年4月1日から天理大学医療学部臨床検査学科所属、教育に携わっている。

学習内容	何が原因で病気が起こり、病気になている状態では身体の中ではどのような現象が起きているのかなどの病理学の基本的な知識を学習する
到達目標	臨床の現場において必須となる病理学の知識が習得できる

準備学習 時間外学習	病理学と共に解剖学と生理学の平行した学習が必要である。
使用教材	救急救命士標準テキスト　第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義テストを100%で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	細胞傷害	細胞傷害の原因、細胞死の種類、適応反応
2		
3	先天異常	染色体異常の種類、原因
4	循環障害	循環障害の種類と原因、その影響など
5	炎症	炎症とは、炎症の種類、またその影響など
6	免疫異常とアレルギー	免疫とは、免疫の種類、アレルギー、自己免疫疾患について
7	腫瘍	腫瘍とは、通常細胞との違い、腫瘍の原因
8		
8.5	試験	

科目名	病理学・法医学(法医学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Forensic Medicine			総時間数	14	単　位	病理と合わせて1
学　年	1	学　期	前期	曜　日	水	時　限	3･4

担当教員	石田　季子	実務者経験	2016年4月－2022年3月 大阪大学法医学教室特任助教、大阪府監察医事務所監察医されていた。

学習内容	人体が死によってどのように変化するのか、原因ごとにどのような所見が見られるのかを学習する。また、死にまつわる公衆衛生的事項についても概説する。
到達目標	疾病や損傷などが人体の限界を超えて作用した、普遍的で不可逆で不可避な状態が死であるため、医療の場においてはいつでも遭遇しうる。法医学的知識の修得により、プロフェッショナルとして死者を遇することができるようになることが目標である。

準備学習 時間外学習	テキストを読んでおくこと。解剖学・救急医学などの復習がなされているとなおよい。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、そのほかに適宜ハンドアウトを配布する。
留意点 備　考	科目の性質上講義資料や話題にセンシティヴな事柄が含まれるため、学生にも医療人としての倫理と守秘を求める。

成績評価	終講義試験により評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	死とはなにか	死の定義や統計に見られる死の状況を知り、現代日本における死とのかかわり方を学ぶ
2	死体現象	生体にはみられず、死体にのみみられる所見について学ぶ
3	内因性急死・中毒	疾病による死の中でも急死、薬毒物による中毒について学ぶ
4	損傷	人体が外部からの力を受けることで発生する傷害と、それにより引き起こされる結果を学ぶ
5	環境と死	温度変化など、周囲の環境による死や大規模災害による死について学ぶ
6	試験	
7	行政解剖	行政解剖見学

科目名	微生物学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Microbiology			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月	時　限	3･4

担当教員	酒井　学	実務者経験	平成18年8月1日から平成20年10月15日まで国立法人神戸大学医学部附属病院中央検査部、平成20年10月16日から現在まで国立法人大阪大学歯学部附属病院検査部にて臨床検査業務を担当している。令和5年4月1日から天理大学医療学部臨床検査学科所属、教育に携わっている。

学習内容	感染症各論
到達目標	（願　い）感染症の病原体と症状を結び付けて理解する。

準備学習 時間外学習	授業毎に指導する。
使用教材	オリジナルプリント　救急救命士標準テキスト　11版
留意点 備　考	

成績評価	筆記テスト

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	微生物学①	微生物を学ぶ理由について
2	微生物学②	感染症について
3	微生物学③	感染経路と回復について
4	微生物学④	感染予防について
5	微生物学⑤	検査法について
6	微生物学⑥	感染症各論①
7	微生物学⑦	感染症各論②
8	試験	筆記試験

科目名	社会保障・社会福祉			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Social Security･Social Welfare			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	火	時　限	3･4

担当教員	中川　るみ	実務者経験	社会福祉士　1993-現在あでソーシャルワーカーとして実務経験あり 社会福祉事務所所長

学習内容	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ 社会福祉の展開、低所得者対策、障害者福祉対策、年金制度について
到達目標	救急救命士に必要な社会福祉と医療、社会保障の関連について理解できる。

準備学習 時間外学習	授業で習ったことの復習をしておく。 重要なキーワードについてまとめていく。練習問題の実施。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	社会保障について	各社会保険の種類（人口資料）
2	〃	〃
3	社会保険について	理念と仕組み等（いのち）
4	〃	〃
5	社会福祉について	制度と運用（ヘレン・ケラー）
6	〃	〃
7	まとめ	これまで習ったことの再確認
8	終講義試験	

科目名	救急医療　Ⅰ医学概論			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Philosophy			総時間数	12	単　位	救急医療すべてで3
学　年	1	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急医学の本質・医学の発達、生命倫理と医の倫理などの基本的な考え方を学ぶ
到達目標	救急隊員としての社会的な責務について具題的に列挙できる。 日常的な業務について倫理的な意義を列挙できる。 業務の内容について傷病者・家族に分かりやすい説明が出来同意を得ることが出来る。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習及び重要キーワードについてまとめておく。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、プリント資料
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	１．医学と歴史	学問の本質と医学、自然科学と人文科学、自然科学的思考、医学概論という学問、医療と医学の歴史的背景、医学の体系化、現代の医学系列、医療と病気
2	２．救急医療と救急医療体制	救急医療、救急医学とは、現代救急医療体制の概略、救急医療の対象、病院前救護とは、救急医療を医学的に保障するための構造、救命士業務の拡大と高度化、救命士の役割、救命士の責任など
3	３．医の倫理	医療者の倫理と生命倫理、医療者倫理の歴史、Ⅱ．生命倫理、医学進歩と生命倫理、「生活の質」と「生命の質」、人の死に関する倫理論議とLiving will、病院倫理規定と倫理委員会、厳格になったInformed Consent、終末期医療、尊厳死と安楽死、尊厳を保持した死を実施する場面について
4	症例について	救急医療汎用専門英語、スライドを見ながら症例について学ぶ
5	まとめ	テスト範囲の総まとめ
6	終講義試験	

科目名	救急医療　Ⅱ病院前救護			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	後期	曜　日	火	時　限	3･4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急医療の意義や救急医療体制、災害医療、メディカルコントロール、プレホスピタルケアとは何かを理解する。
到達目標	・現在の救急医療体制について説明できる。・災害医療特有の救急活動、行動規範について学ぶ。・最新の救急蘇生法を習得する。 ・病院前救護、メディカルコントロールの考え方につき学ぶ。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版　プリントなど。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	救急医療体制	病院前医療、令和元年度版　救急・救助の現況
2	救急医療体制	救急医療システム（一般、周産期、精神科、小児救急医療体制）、救急医療情報（救急医療情報センター、救急安心センター）
3	災害医療体制	災害の概念、多数傷病者に対する対応、トリアージについて
4	災害医療体制	災害に関連する法的骨格は、特殊災害とは
5	病院前医療体制	救命の連鎖、救急蘇生法（ガイドライン2015）について、メディカルコントロールとは
6	試験	終講義試験

科目名	救急医療　　Ⅲ救急活動の基本			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	前期	曜　日	水	時　限	1･2･3･4

担当教員	金村　諭司		29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急救命士として、消防機関における救急活動の基本及び流れを学習する。
到達目標	救急救命士に関連する法令、救急救命士の役割や責任を理解した上で、通信指令室の役割や救急活動の流れを理解し説明できる知識を身につける。また、救急救命士としての生涯教育についても理解し説明できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの配布
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版　　PPT資料
留意点 備　考	

成績評価	五肢択一若しくは択二の問題25問の筆記試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	消防機関における救急活動の流れ	救急業務とは何か。その定義、基本原則及び対象等を理解する。
2	消防機関における救急活動の流れ	救急活動の基本（覚知から帰署後の書類作成まで）を理解しイメージする。
3	救急救命士の役割と責任	救急救命士の役割と責任を理解しイメージする。
4	救急救命士に関連する法規	救急救命士に関する法規、消防関係法規等を理解し、消防の職務をイメージする。
5	救急救命士の養成と生涯教育	救急救命士の養成と生涯教育について理解しイメージするとともに、救急救命士の将来について考える。
6	まとめと試験	

科目名	救急医療　Ⅳ医用電子工学			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Medical Electronic Engineering			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	後期	曜　日	水	時　限	1･2

担当教員	山口　睦人	実務者経験	関西医科大学附属病院にて中央手術室を中心に集中治療部門、カテ室、内視鏡、血液浄化へ臨床工学技士として臨床業務、また医療機器安全管理者として、特定機能病院に必要な安全管理業務に従事している。

学習内容	救急分野で使用されるME機器の基本原理・基本操作・安全性について学ぶ
到達目標	救急救命士にとって必要な医療機器の知識を習得できる。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習
使用教材	プリント資料
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	AED、生体監視装置	除細動器（AED）、生体監視装置の使用法、事故事例紹介
2	AED、生体監視装置	〃
3	人工呼吸器	人工呼吸に必要なモニタリング（Spo2、血液ガス）、呼吸器概論
4	人工呼吸器	〃
5	総復習	総復習
6	試験	

科目名	処置			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Treatment			総時間数	32	単　位	2
学　年	1	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	1.2.3.4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①処置等の概念を理解する。②各処置について意義を理解する。 ③各処置について適応を的確に判断できる。④各処置を適切に実施できる。 ⑤各処置についてその効果を評価できる。 各種の処置について要点をとらえ、実践へのファーストステップとして理解する。 傷病者搬送の目的と意義を理解する。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。 練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ　第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	静脈路確保	目的と適応、資器材と準備
2	静脈路確保	手順と手技、評価、合併症、留意点
3	薬剤投与	心停止時のアドレナリン投与 アナフィラキシーに対するアドレナリン投与
4	薬剤投与	血糖測定とブドウ糖溶液投与 心肺停止時と心肺停止前の乳酸リンゲル液投与
5	その他の処置	体位管理、体温管理
6	外傷に対する処置	止血、創傷処置
7	外傷に対する処置	固定処置（骨折・脱臼）
8	外傷に対する処置	固定処置（頸椎保護・全脊柱固定・ＫＥＤ・フレイルチェスト）
9	在宅療養者に対する処置	在宅酸素療法、在宅人工呼吸、気管切開、 植込み型ペースメーカー
10	在宅療養者に対する処置	経管栄養、中心静脈栄養カテーテル、血液透析、 腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門
11	救急救命士が行う処置	処置の目的と意義、気道確保・用手的気道確保・気道異物除去・口腔内吸引・デバイスを用いた気道確保
12	救急救命士が行う処置	〃
13	救急救命士が行う処置	搬送総論・搬送方法・搬送手順

14	救急救命士が行う処置	〃
15	救急救命士が行う処置	気管挿管、気管吸引、酸素投与の目的・方法・合併症・注意点など
16	救急救命士が行う処置	〃
17	救急救命士が行う処置	ヘリコプターへの搬入と搬出、事故車両からの救出方法
18	救急救命士が行う処置	〃
19	救急救命士が行う処置	人工呼吸、胸骨圧迫の目的･方法･合併症･注意点、徐細動など
20	救急救命士が行う処置	〃
21	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	観察・判断			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Observation･Decision			総時間数	20	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月火	時　限	1.2.3.4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急患者に対しての全身および局所の観察、緊急度重症度の判断とその対応を習得。
到達目標	適切な観察は、その後の適切な判断・処置には欠かせないものであり、それが重症度緊急度判断、病院選定、患者の予後に直接かかわってきます。適切な観察をするための方法とそれによって診られる徴候の意味が理解できることを目標とします。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版　及びプリント資料など
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	傷病者の観察	・観察の目的と意義、観察の方法・全身状態の観察
2	傷病者の観察	・バイタルサイン、外見、気道、呼吸、循環、神経の各所見とその意味について学習
3	傷病者の観察	・局所の観察
4	傷病者の観察	・皮膚、頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢の各所見とその意味について学習
5	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
6	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
7	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター　・カプノメーター　・聴診器　・血圧計　・心電図モニター　・体温計　・血糖測定器）
8	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター　・カプノメーター　・聴診器　・血圧計　・心電図モニター　・体温計　・血糖測定器）
9	まとめ	・まとめ（国家試験問題）
10	試験	・終講義試験

科目名	検査学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Clinical Examination			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	1･2

担当教員	朝日　佳代子 兒嶋　嵩 笹井　正思	実務者経験	朝日　佳代子 1994年4月～　大阪大学医学部附属病院　臨床検査部に所属 日常業務にて生理検査担当、当直業務にて輸血・血液検査経験 兒嶋　嵩 2013年4月～2015年3月 大阪大学医学部附属病院 医療技術部検査部門に所属 2015年4月～現在　大阪大学医学部附属病院　高度救命救急センターにて救急検査業務に従事 笹井　正思 1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務し放射線診療に従事、現在に至る。

学習内容	検査学における、生理機能検査・血液検査・輸血検査について基礎的な内容を学ぶ。 救急医療における各臨床検査項目の目的、種類、検査データの評価方法を学ぶ。 単純エックス線撮影法、CT検査法、MRI検査法、血管造影法（Digital Subtraction Angiography）、内視鏡、核医学検査といった各種画像診断法の原理と特徴、適応疾患につき、画像を供覧しながら解説する。
到達目標	生理機能・血液（止血）・輸血検査について基礎的な内容の理解。救急救命士国家試験に対応可能なレベルへの到達。 救急救命士標準テキストに記載されている各臨床検査項目の臨床的意義や検査データの診方を理解し、医療スタッフとの情報交換・救急医療に役立てる。 各種画像診断法の利点、欠点を説明できる。

準備学習 時間外学習	前期開講の「解剖学・生理学」の知識を前提に、各種画像ではどのように描出されるかを供覧する。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、スライドによる講義・配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	選択式問題で評価

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	生理機能	心電図検査、肺機能検査、脳波検査について説明。 主な症例における心電図波形、肺機能検査における主な臨床評価を理解する。
2	検査学1	臨床検査総論・一般検査【各臨床検査の目的・種類と検査結果の見方、および一般検査について】 臨床検査の目的や種類、検査データの診方が理解できる。一般検査の種類や臨床的意義が理解できる。
3	検査学2	生化学・血液ガス検査【生化学検査の臨床的意義・基準範囲・パニック値、および血液ガス検査について】 主な生化学検査項目の臨床的意義、基準範囲、パニック値が理解できる。また、血液ガス検査における酸素化や換気、酸塩基平衡の基本的な診方が理解できる。
4	検査学3	微生物検査【微生物検査項目の臨床的意義や検査の流れについて】 微生物検査の臨床的意義、および医療従事者となるうえで知っておくべき主な病原微生物が理解できる。
5	血液	形態を含めた血液検査、止血検査について説明。 主な血液疾患と血液検査項目との関連について理解する。
6	輸血	輸血検査について説明。 血液型・輸血検査の判定方法、輸血副作用について理解する。
7	画像診断学	内容：単純X線撮影、CT、MRI、超音波、血管造影、内視鏡、核医学検査につき概説する 目標：各種画像検査法の特徴（利点、欠点）を説明できる。
8	試験	終講義試験

科目名	放射線医学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Radiology			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	月	時　限	1･2

担当教員	笹井　正思	実務者経験	1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務、放射線診療に従事し現在に至る。

学習内容	臨床で用いられる電離放射線の基礎的事項と生物への影響、放射線防護等の一般的な放射線学的知識と、 それを基として放射線障害要救護者対応・緊急被曝医療を学ぶ
到達目標	放射線の一般的知識を基に、放射線事故時の区域管理・スクリーニング・除染処置等の対応と緊急被曝医療体制の概要を理解する

準備学習 時間外学習	放射線物理学に関しては原子の構造・電離作用等の物理学的知識を、放射線生物学に関しては生体中でのDNAの役割等の生物学的知識を、放射線影響学に関しては組織の構造等の解剖学知識を、各々要する。前期開講の当該科目関連事項の復習が望まれる
使用教材	救命救急士テキスト第11版（ヘルス出版）　　配布プリント
留意点 備　考	環境省が公開している「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」の閲覧を推奨いたします

成績評価	期末試験で評価する

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	放射線医学概説 放射線の利用	内容：暮らしや産業のなかでの放射線利用を解説する。目標：放射線利用法から放射線の各種の性質を説明できる。放射線施設は多様で身近に存在し、救急活動現場となりうることを理解する。
2	放射線の基礎知識	内容：放射性壊変と、放射線の種類について学ぶため、原子模型や崩壊形式について解説する。 目標：放射線の種類、分類とその性質につき説明できる。
3	放射線物理学	内容：放射線の一般的性質について解説する。目標：放射線、放射能、放射性同位元素の意味を説明できる。放射線に関わる単位（ベクレル・グレイ・シーベルト）について説明できる。
4	放射線生物学	内容：放射線の生物学的影響の発現機序と効果、放射線感受性について解説する。 目標：確率的影響と確定的影響（組織反応）の差異を説明できる。
5	放射線被曝と防護	内容：ICRPによる放射線防護の基本的な考え方を解説する。目標：対象者による被曝の区分（職業被曝・公衆被曝、医療被曝）、各種被曝様式（内部被曝と外部被曝）について説明できる。
6	放射線事故時の対応	内容：一連の放射線事故対応尾（線量測定、汚染拡大防止、区域管理）について解説する。 目標：時間、距離、遮蔽等の外部被曝への防護法と、区域管理の要点を説明できる。
7	緊急被曝医療体制 まとめ	内容：被曝事故傷病者に関わる一般的事項と緊急被曝医療体制について解説する。 目標：重度の被爆に関連して傷病者に現れうる症状等について、説明できる。
8	試験	後期試験

科目名	シミュレーション実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	316	単　位	7
学　年	1	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	喜代平　要一 金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急救命士に必要な基礎を学ぶ。
到達目標	救急救命士に必要な基礎を学び、想定訓練に繋げれるようになる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	BLS、救急救命処置Ⅰは試験を行う。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	規律訓練	横隊編成･停止間訓練
2	規律訓練	横隊編成･停止間訓練
3	規律訓練	横隊編成･停止間訓練
4	規律訓練	横隊編成･停止間訓練
5	被覆固定	三角巾･シーネ
6	被覆固定	三角巾･シーネ
7	規律訓練	各個訓練･行進間
8	規律訓練	各個訓練･行進間
9	ロープ	本結び･もやい結び･巻き結び 座席結び･コイル巻きもやい結び
10	ロープ	本結び･もやい結び･巻き結び 座席結び･コイル巻きもやい結び
11	BLS	BLS概要説明
12	BLS	BLS概要説明
13	BLS	人工呼吸･胸骨圧迫
14	BLS	人工呼吸･胸骨圧迫
15	BLS	心肺蘇生法(AEDなし)
16	BLS	心肺蘇生法(AEDなし)
17	規律訓練	各個訓練･行進間

18	規律訓練	各個訓練・行進間
19	止血	H29あり方検討会報告書による 止血講習（面談）
20	止血	H29あり方検討会報告書による 止血講習（面談）
21	BLS	小児・乳児・異物除去（面談）
22	BLS	小児・乳児・異物除去（面談）
23	復習	BLS・被覆・ロープ
24	復習	BLS・被覆・ロープ
25	被覆固定	三角巾・シーネ
26	被覆固定	三角巾・シーネ
27	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
28	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
29	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
30	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
31	活動流れ	初期評価の概要 初期評価トレーニング
32	活動流れ	初期評価の概要 初期評価トレーニング
33	活動流れ	初期評価の概要 意識
34	活動流れ	初期評価の概要 意識
35	活動流れ	バイタルサイン
36	活動流れ	バイタルサイン
37	活動流れ	バイタルサイン
38	活動流れ	バイタルサイン
39	BLS	ポケットマスク
40	BLS	ポケットマスク
41	活動流れ	傷病者搬送 徒手・布・イーバック・メイン
42	活動流れ	傷病者搬送 徒手・布・イーバック・メイン
43	復習	査閲訓練 （ロープ・救急活動・BLS）
44	復習	査閲訓練 （ロープ・救急活動・BLS）
45	ロープ	本結び・もやい結び・巻き結び 座席結び・コイル巻きもやい結び
46	ロープ	本結び・もやい結び・巻き結び 座席結び・コイル巻きもやい結び
47	活動流れ	出動訓練5症例

48	活動流れ	出動訓練5症例
49	BLS	人工呼吸・胸骨圧迫
50	BLS	人工呼吸・胸骨圧迫
51	酸素投与	酸素投与・ボンベの確認方法
52	酸素投与	酸素投与・ボンベの確認方法
53	呼吸音	聴診方法、異常呼吸音について
54	呼吸音	聴診方法、異常呼吸音について
55	傷病者搬送	体位・車内収容要領・各種搬送器具
56	傷病者搬送	体位・車内収容要領・各種搬送器具
57	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
58	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
59	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
60	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
61	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
62	処置	気道確保・BVMによる人工呼吸
63	処置	エアウェイ含めた気道確保 BVMによる人工呼吸
64	処置	エアウェイ含めた気道確保 BVMによる人工呼吸
65	BLS	救命講習の概要説明 普通救命講習Ⅰ
66	BLS	救命講習の概要説明 普通救命講習Ⅰ
67	活動流れ	出動訓練5症例
68	活動流れ	出動訓練5症例
69	BLS	普通救命講習Ⅰ
70	BLS	普通救命講習Ⅰ
71	BLS	BLSテスト
72	BLS	BLSテスト
73	異物除去	異物除去
74	異物除去	異物除去
75	異物除去	異物除去
76	異物除去	異物除去
77	心電図	心電図

78	心電図	心電図
79	心電図	除細動／吸引器取扱い
80	心電図	除細動／吸引器取扱い
81	自動心マ	自動心マ取扱い
82	自動心マ	自動心マ取扱い
83	復習	復習①
84	復習	復習①
85	復習	復習①
86	復習	復習①
87	自動心マ	自動心マ取扱い
88	自動心マ	自動心マ取扱い
89	復習	初期評価・トリアージ
90	復習	初期評価・トリアージ
91	観察	情報収集・ファーストコール 観察
92	観察	情報収集・ファーストコール 観察
93	観察	観察（腹痛／吐血・喀血）
94	観察	観察（腹痛／吐血・喀血）
95	観察	観察（下痢／下血・不正性器出血）
96	観察	観察（下痢／下血・不正性器出血）
97	復習	初期評価・トリアージ
98	復習	初期評価・トリアージ
99	観察	腰痛・血尿・側腹部痛
100	観察	腰痛・血尿・側腹部痛
101	観察	背部痛・胸痛
102	観察	背部痛・胸痛
103	観察	めまい・ふらつき・しびれ・麻痺
104	観察	めまい・ふらつき・しびれ・麻痺
105	観察	背部痛・胸痛
106	観察	背部痛・胸痛
107	観察	痙攣・頭痛

108	観察	痙攣・頭痛
109	観察	呼吸困難・動悸
110	観察	呼吸困難・動悸
111	観察	JPTEC座学
112	観察	JPTEC座学
113	観察	全身固定要領
114	観察	全身固定要領
115	観察	外傷症例
116	観察	外傷症例
117	観察	緊急処置
118	観察	緊急処置
119	観察	緊急処置
120	観察	緊急処置
121	観察	集団災害要領
122	観察	集団災害要領
123	観察	献血概要・外傷パターン・各種観察
124	観察	献血概要・外傷パターン・各種観察
125	観察	外傷症例
126	観察	外傷症例
127	観察	接遇・症例
128	観察	接遇・症例
129	観察	接遇・症例
130	観察	接遇・症例
131	観察	救急出動訓練（症例付与）
132	観察	救急出動訓練（症例付与）
133	観察	外傷処置訓練
134	観察	救急救命処置Ⅰテスト
135	まとめ	1年総まとめ

科目名	情報科学			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Information Processing			総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	通年	曜　日	木	時　限	3･4

担当教員	永野　千恵美	実務者経験	1986年よりコンピュータ関係のインストラクタとして従事 1990年より、大学・専門学校・高校にて情報処理関係の講師として勤務

学習内容	コンピュータの基本操作、ITリテラシーの習得
到達目標	Wordによる各種文書作成、Excelによる表計算・グラフ作成・データベースなどの作成活用できるレベルへの到達

準備学習 時間外学習	授業内容の復習
使用教材	「繰り返して慣れる！Office演習ドリル　全489題」
留意点 備　考	継続してデータを使用するため作成データの保存を必ず行う事

成績評価	筆記40%　実技60%

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	オリエンテーション	PC・OS基本操作、文字入力
2	ビジネス文書	文書作成、基本的なビジネス文書（社外・社内文書）
3	表作成	表作成
4	表入り文書	表入り文書の作成
5	オブジェクトの扱い	ワードアート、クリップアート、図形
6	図入り文書作成	ワードアート、クリップアート、図形などを取り入れた文書作成
7	復習	ドリル
8	Wordテスト	Word知識・実技試験
9	Excel概要 基本操作	データ入力、書式設定
10	計算式	四則演算、関数
11	計算式	様々な関数
12	グラフ作成	様々なグラフ作成、編集
13	グラフ作成	様々なグラフ作成、編集
14	データベース	データの並べ替え、抽出
15	復習	ドリル
16	Excelテスト	Excel知識・実技試験

科目名	保健・体育学Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	32	単　位	2
学　年	2	学　期	通年	曜　日	木	時　限	3･4

担当教員	澁谷　和久	実務者経験	1992年～2002年　フィットネスクラブでフィットネスインストラクターとして指導を行う。2003年からスピードトレーニングコーチとして各種アスリートの指導を行う。

学習内容	就職試験において必要な体力要素の向上
到達目標	筋力、筋持久力、種発力、敏捷性、平衡性において20歳の上位の体力を目指す

準備学習 時間外学習	体調管理、復習トレーニング
使用教材	トレーニングマシン各種、マット、ダンベル、バランスボール
留意点 備　考	目的、注意点、予想される効果を把握する。

成績評価	前期、後期の体力テストで評価

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	ガイダンス 概要説明	測定に必要な胆力要素、体力要素別トレーニング方法
2	筋力、筋持久力	トレーニング効果の獲得速度、最大筋力、ピークパワーの発揮
3	瞬発力、敏捷性	最大筋パワー、プライオメトリック、クイックネストレーニング
4	前期テスト	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
5	測定結果からの 目標設定	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力
6	全身持久力 筋持久力	ＬＴ値サーキットトレーニング
7	最大筋パワー ミドルパワー	リニアサーキット、ドットドリル、ハピング、バウンディング
8	後期テスト	測定、筋力・筋持久力・敏捷性・瞬発力・一般持久力

科目名	接遇と安全管理			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Reception & Service			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日		時　限	3･4

担当教員	平田　誠 森本　幸夫	実務者経験	病院救命士として15年の臨床経験（救急救命士） 消防経験40年勤務ののち東洋医療学校で教員として7年、病院救命士指導顧問として現在に至る（救急救命士）

学習内容	傷病者、家族に対する接遇要領、安全管理について、ストレスマネージメントについて、テキストを通して学習する。
到達目標	救急救命士として傷病者やその家族と接する時の接遇とはどういうものかを理解できる 救急救命士自身、また傷病者の安全管理が行えるよう理解することができる 救急救命士自身のストレスマネージメントとはどういうことか理解できる

準備学習 時間外学習	講義内容の復習を行う。
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	自己紹介	■他者に情報を適切に伝達するということを意識した自己紹介 (声の大きさや態度、話し方を意識する)
2	救急救命士と傷病者との関係	■傷病者とのコミュニケーションの技法と初期対応について ■安心につながる対応、精神的援助、死者その家族とのかかわり ■インフォームドコンセントと生前意思表示について
3	安全管理	■安全管理とリスクマネージメント ■傷病者の安全管理（転倒・転落防止、チューブ・カテーテル類管理、誤嚥防止、感染予防） ■救急隊員の安全管理（業務上の事故、感染防御）
4	フィジカルアセスメント	■フィジカルアセスメント（呼吸・循環・意識・腹部）の理解
5	ストレスに対するマネージメント	■救急活動でのストレス（ストレスの意味、対応、ＰＴＳＤについて） ■救急活動でのストレス対応（ＰＴＳＤに対するケア、環境整備）
6	トリアージ学習	■トリアージの基礎の理解 ■トリアージペーパー演習
7	まとめ	全体を通しての復習(重要事項の再確認)
8	終講義試験	

科目名	心肺停止			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Cardio-Pulmonary Arrest			総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	心肺停止の概念、病態について理解し、救急蘇生法の最新のガイドラインを学習することで、救急活動におけるプロトコールを理解、習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心肺停止総論	・定義、概念、疫学についての最新資料　・救急活動基準に記載されている心肺停止に関する定義　・早期、晩期死体現象（死後変化）　・ウツタイン様式について説明。
2	心肺停止に至る病態と原因	・不整脈、低心拍出量　・心臓振盪について
3	心肺停止に至る病態と原因	・呼吸不全　・乳幼児突然死症候群に関する知見　・脳障害、急性中毒、電解質異常、電撃症など
4	心肺停止に至る病態と原因	・生体酸素状況　・主な原因疾患について（5H5T）　・心電図分類
5	心肺蘇生中の病態	・胸骨圧迫による循環発生の機序　・心肺蘇生中の冠循環と脳循環
6	心肺蘇生中の病態	・心肺蘇生中の呼吸循環（呼気終末二酸化炭素分圧の重要性　・胸骨圧迫の効果に影響する因子（血管収縮薬、陽圧換気など）
7	心拍再開後の病態	・虚血　・再灌流障害　・循環、神経機能の回復過程
8	心拍再開後の病態	・心拍再開後の経過に影響する因子（酸素、二酸化炭素、体温、血糖、痙攣など） ・ガイドライン2015記載内容
9	救急蘇生法	・蘇生ガイドラインの歴史　・蘇生ガイドラインの成り立ち　・AHA、ERC、JRC
10	蘇生ガイドライン	・一次救命処置（市民用）　・ガイドライン2015
11	救急隊員による一次救命処置	・一次救命処置（医療用）　・ガイドライン2015　・市民による一次救命処置についても講義
12	心肺蘇生に関する病院前救護のプロトコール	・病院前救護の心肺蘇生に関するプロトコール　・心停止アルゴリズム　・心肺機能停止対応業務ムロトコール　・包括的指示下除細動プロトコール　・器具を用いた気道確保プロトコール　・薬剤投与プロトコール　・VF/無脈性VTへの対応　・無脈静電気活動/心静止への対応
13	医療機関での治療	・二次救命処置　・特殊な二次救命処置（PCPS、開胸式心マッサージ）　・心拍再開後の集中治療
14	小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法	・ガイドライン2015の内容も合わせて
15	まとめ	・最近の国家試験問題ほか

科目名	ショック・循環不全			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Shock・Circulatory Failure			総時間数	32	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	心不全・ショックについて、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	循環系の解剖･生理など既習の分野を復習する。テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト　11版
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心不全	総論 病態生理
2	心不全	症候、種類、慢性心不全の急性増悪、現場活動
3	ショック	総論
4	ショック	循環血液量減少性ショック（１）
5	ショック	循環血液量減少性ショック（２）
6	ショック	心原性ショック 心外閉塞・拘束性ショック
7	ショック	血液分布異常性ショック
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	32	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	重症脳障害・意識障害について、 ①病態生理を理解する。②症状を観察して判断できる。③応急処置と搬送を適切にできる。 ④必要な治療を想定して医療機関を選定し、適確に報告できる。

準備学習 時間外学習	中枢神経系の解剖･生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト　第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	重症脳障害	総論・発症機序 一次性脳病変と二次性脳病変
2	重症脳障害	頭蓋内圧亢進
3	重症脳障害	脳ヘルニア
4	重症脳障害	特殊な意識障害
5	意識障害	意識障害の原因
6	意識障害	随伴症候
7	意識障害	意識障害の判断と現場活動
8	まとめ・テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	救急症候学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Symptomatology			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	各種救急疾患でみられる症候を学習
到達目標	各種救急症候について、その機序・病態生理を理解し、観察法・評価法について理解し、適切な処置につなげられるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	呼吸不全・呼吸困難	・呼吸不全の概念と病態生理　・分類
2	呼吸不全・呼吸困難	・原因疾患と重症度緊急度の判断　・処置
3	頭痛・痙攣	・発症機序と分類　・原因疾患と随伴症候
4	頭痛・痙攣	・重症度緊急度の判断　・処置
5	運動麻痺	・病態生理と分類　・原因疾患と随伴症候
6	運動麻痺	・重症度緊急度の判断　・現場活動
7	めまい	・発症機序と分類　・原因疾患と随伴症候
8	めまい	・重症度緊急度の判断　・現場活動
9	喀血	・定義と分類　・原因疾患と随伴症候
10	喀血	・重症度緊急度の判断　・現場活動
11	吐下血	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
12	吐下血	・重症度緊急度の判断　・現場活動
13	失神	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
14	失神	・重症度緊急度の判断　・現場活動
15	胸痛・動悸	・定義と発症機序　・原因疾患と随伴症候
16	胸痛・動悸	・重症度緊急度の判断　・現場活動

17	腹痛	・発症機序　・原因疾患と随伴症候
18	腹痛	・重症度緊急度の判断　・現場活動
19	腰痛・背部痛	・定義と概念　・原因疾患と随伴症候
20	腰痛・背部痛	・重症度緊急度の判断　・現場活動
21	体温上昇	・定義と発症機序　・原因疾患と随伴症候
22	体温上昇	・重症度緊急度の判断　・現場活動
23	まとめ	まとめと試験

科目名	疾病救急医学Ⅰ(神経系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Neural Diseases			総時間数	18	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①神経系の構造と機能を理解する。②神経系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな神経系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな神経系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	神経系の解剖･生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論（１）	中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、脳の血管 疫学と救急医療における意義
2	総論（２）	神経系疾患の主要症候 基本的対応
3	脳血管障害（１）	脳血管障害の概要 くも膜下出血
4	脳血管障害（２）	脳出血
5	脳血管障害（３）	脳梗塞、一過性脳虚血発作 脳動静脈奇形、もやもや病
6	中枢神経系の感染症	髄膜炎、脳炎、脳膿瘍
7	その他の中枢神経疾患	てんかん、脳腫瘍
8	その他の中枢神経疾患 末梢神経疾患	変性疾患、脱髄疾患 ギランバレー症候群、糖尿病性ニューロパチー
9	まとめと補足 テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅰ(感覚器口腔系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sensory & Oral Diseases			総時間数	14	単　位	神経系と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	3.4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	感覚器口腔分野の解剖を理解したうえで主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な感覚器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	毎回の講義後、復習をしておく
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	眼の主要症候と救急疾患	眼科領域の解剖 視覚障害と各眼科的救急疾患の理解を深める
2	〃	急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離、結膜炎･角膜炎、白内障、視神経炎
3	耳鼻咽喉科	聴覚器の解剖
4	〃	末梢性めまい、炎症(中耳炎、鼓膜穿孔) 鼻の疾患(鼻出血、急性副鼻腔炎)
5	顎･口腔の解剖および、代表疾患	歯･口腔系の構造を理解した上で、疾患について理解する。 救急現場おける対処法について理解する。
6	口腔外科学および、口腔外傷対処法	〃
7	試験	

科目名	疾病救急医学Ⅱ(呼吸器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Respiratory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①呼吸器系の構造と機能を理解する。②呼吸障害について観察して評価できる。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな呼吸器系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな呼吸器系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	呼吸系の解剖･生理など既習の関連分野を復習する。テキストの用語について調べておく。　受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	疾患の理解に必要な 基礎知識	呼吸系の構造と機能、疾病の背景因子 換気、ガス交換、血液による酸素運搬
2	呼吸についての 病態生理	酸素欠乏、換気の障害(気道と呼吸運動)、ガス交換の障害(肺胞と肺間質)、 酸素運搬の障害(ヘモグロビンと血流)、酸素利用の障害
3	呼吸器系疾患の 観察と判断	疫学、観察、症状、重症度と緊急度、 応急処置と搬送、医療機関の選定
4	上気道の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
5	下気道と肺胞の疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
6	感染症	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
7	胸膜疾患 その他の呼吸系疾患	病態、症状、観察のポイント、予後、 観察と判断、処置、搬送
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅱ(循環器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Circulatory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	期間中随時

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①循環系の構造と機能を理解する。②循環系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。④おもな循環系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな循環系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト　第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	循環系の構造、心周期、ポンプ機能 疫学、主要症候、基本的対応
2	動脈硬化 心不全 高血圧	動脈硬化の概念と病態 心不全の病態生理と症候 高血圧症、高血圧緊急症
3	血管疾患	急性大動脈解離、大動脈瘤、 急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症
4	虚血性心疾患	概念、急性冠症候群、急性心筋梗塞、 不安定狭心症、安定狭心症
5	心筋疾患 心膜疾患 その他の心疾患	心筋症、心筋炎 心タンポナーデ、急性心膜炎 心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患
6	心電図の解読	心電図の基礎 頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、その他の不整脈 心筋の虚血性変化、その他の心電図異常
7	不整脈	不整脈とは、心臓突然死、心室細動、心室頻拍、 心房細動、洞頻脈、房室ブロック、 ＱＴ延長症候群、ＷＰＷ症候群
8	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅲ(消化器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Digestive Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金	時　限	3･4

担当教員	谷村　博久	実務者経験	1986年から大阪大学医学部第一内科勤務、1990年から大阪警察病院内科勤務、2003年から大阪回生病院内科勤務、現在、副院長、内科統括部長、消化器センター長兼務。

学習内容	消化器疾患の基礎および多彩な臓器の多彩な病態を学んで理解する。
到達目標	消化器疾患の基礎を学び、ある程度の疾患の鑑別および重症度の判断ができるようになり、臨床の場に応用できるレベルになる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	試験にて評価する

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	消化器疾患について
2	総論	症候について
3	消化器系疾患	上部消化管疾患について
4	消化器系疾患	下部消化管疾患について
5	消化器系疾患	肝疾患について
6	消化器系疾患	胆膵疾患について
7	まとめ	まとめ、復習
8	試験	試験

科目名	疾病救急医学Ⅲ(泌尿生殖器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Uro-Genital Diseases			総時間数	10	単　位	消化器疾患と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金	時　限	3･4

担当教員	辻畑　正雄	実務者経験	医師、大学病院、市中病院等で30年泌尿器科で診療・治療に携わる

学習内容	
到達目標	泌尿器・男性生殖器領域の解剖・生理について理解し、同領域における救急疾患を中心に学習する

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）　　スライドなど
留意点 備　考	

成績評価	試験を行う

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	泌尿器、生殖器の 解剖生理	泌尿器・男性生殖器の解剖および生理
2	泌尿器疾患	腎不全および尿路結石症について
3	泌尿器生殖器疾患	前立腺肥大症、尿路感染症、尿路性器癌
4	泌尿器の外傷	救急外傷について
5	試験	試験

科目名	疾病救急医学Ⅳ(内分泌代謝栄養系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Humoral,Metabolic & Nutritious Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①内分泌系の構造と機能を理解する。②内分泌･代謝･栄養系の病態生理を理解する。 ③関連する症候を観察して評価できる。 ④おもな内分泌･代謝･栄養系疾患について病態を理解する。 ⑤おもな内分泌･代謝･栄養系疾患について観察と判断をし、応急処置と搬送ができる。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	内分泌系疾患	内分泌系の解剖生理学 代謝・内分泌・栄養系疾患の総論
2	内分泌系疾患	内分泌系疾患
3	栄養障害	栄養、栄養障害、低栄養･飢餓、肥満･栄養過多、 ビタミン欠乏、ビタミン過剰
4	糖尿病	病態、分類、合併症、治療
5	糖尿病の関連病態	低血糖 糖尿病ケトアシドーシス 高浸透圧高血糖症候群
6	代謝障害	糖質代謝の障害、脂質代謝の異常、 蛋白質代謝の異常
7	水・電解質の異常 酸塩基平衡の異常	体液の異常、脱水、水分過剰 電解質の異常 酸塩基平衡の異常
8	まとめ と テスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	疾病救急医学Ⅳ(血液免疫系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Blood & Immune Diseases			総時間数	16	単 位	内分泌代謝栄養系と合わせて1
学 年	2	学 期	後期	曜 日	月	時 限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	血液･体液の解剖と生理を理解した上で血液免疫疾患の症状･評価･鑑別･救急処置などを学ぶ。
到達目標	血液免疫疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる様になる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備 考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ･内容･目標】	
1	**血液免疫総論**	救急医療における意義、血液･免疫系疾患の主要症候
2	〃	1)出血傾向/2)リンパ節腫脹/3)肝脾腫、緊急度･重症度の判断、応急処置と搬送、医療機関選定
3	**血液各論**	貧血、血小板減少症、白血病、血友病、紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)
4	〃	顆粒球減少症、止血に影響を与える薬剤(経口抗凝固薬/2)抗血小板薬)
5	**免疫各論**	1.アナフイラキシー、1)定義･概念/2)疫学/3)原因/4)病態/5)症候/6)現場活動/7)医療機関での診療/8)予後
6	〃	2.アレルギー性疾患、1)薬物アレルギー/2)食物アレルギー/3)血清病 3.自己免疫疾患、4.膠原病
7	**まとめ、演習**	重要事項の再確認
8	**テスト**	

科目名	疾病救急医学Ⅴ(筋骨格・皮膚系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Musculo-Skeletal Diseases･Skin Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	4

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得、2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	筋・骨格系の解剖・生理と筋骨格系疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。 皮膚の構造と機能と皮膚疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。
到達目標	筋・骨格系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。 皮膚系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	筋骨格系疾患１	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
2	筋骨格系疾患２	脊椎疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	筋骨格系疾患３	関節疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	筋骨格系疾患４	筋疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	皮膚系疾患１	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
6	皮膚系疾患２	皮膚・軟部組織の感染症　の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
7	皮膚系疾患３	皮膚アレルギー疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
8	終講義試験	

科目名	一般外傷			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Trauma			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	通年	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、評価・鑑別、予後や救急処置・搬送方法等について理解できる。
到達目標	外傷の受傷機転別に受傷形態、外傷分類、病態生理を理解することで外傷の現場活動のポイントを整理する。 各種外傷（頭部外傷、顔面頸部外傷、脊椎脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚軟部組織外傷、小児高齢者妊婦の外傷）別に、疫学、受傷機転、病態生理、現場活動における注意点につき学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
2	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
3	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
4	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
5	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の生体反応につき学習する。
6	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点・注意点につき学習する。
7	外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点
8	外傷の現場活動	・注意点につき学習する。
9	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
10	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
11	顔面・頸部外傷	顔面・頸部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
12	まとめ・試験	まとめ（国家試験問題他）と終講義試験
13	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
14	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
15	胸部外傷	胸部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
16	胸部外傷	胸部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。

17	腹部外傷	腹部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
18	腹部外傷	腹部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
19	骨盤外傷	骨盤外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
20	骨盤外傷	骨盤外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
21	四肢外傷、皮膚・軟部組織外傷	四肢外傷・皮膚軟部組織外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。 同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
22	小児・高齢者・妊婦の外傷、	小児・高齢者・妊婦の外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
23	まとめ・試験	まとめと終講義試験

科目名	特殊外傷(熱傷電撃症化学損傷・異物縊頸刺咬傷)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Burn・Foreign Body, Hanging, Sting & Bite			総時間数	16	単　位	熱傷電撃症化学損傷と合わせて1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	4

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	異物縊頸刺咬傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。 熱傷電撃症化学損傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。
到達目標	異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。 熱傷電撃症化学損傷異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	異物・縊頸・刺咬傷１	気道異物・消化管異物　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
2	異物・縊頸・刺咬傷２	耳目鼻性器の異物・縊頸　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	異物・縊頸・刺咬傷３	哺乳類・爬虫類による咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	異物・縊頸・刺咬傷４	節足動物・海洋生物による刺咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	熱傷電撃症化学損傷１	熱傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
6	熱傷電撃症化学損傷２	化学損傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
7	熱傷電撃症化学損傷３	電撃症・雷撃症　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
8	特殊外傷	試　　験

科目名	環境障害・急性中毒学(環境障害)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Environmental Diseases			総時間数	12	単　位	急性中毒学と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	神納 光一郎	実務者経験	医師、救急医療に28年間従事する

学習内容	救急救命士標準テキストを丁寧に学習する。 テキストの内容について補足して解説する。 関連する話題を取り上げて解説する。
到達目標	①各傷病について原因と病態生理を理解する。 ②各傷病について適切に判断して処置できる。 ③必要な診療を理解し、適切な医療機関に救急搬送できる。

準備学習 時間外学習	解剖･生理など既習の関連分野を復習する。　テキストの用語について調べておく。受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	改訂第10版　救急救命士標準テキスト（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	熱中症	疫学、病態生理
2	熱中症	観察と対応
3	偶発性低体温症 凍傷	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
4	溺水 減圧障害	病態生理、観察と処置 発症機序と病態生理、観察と対応
5	高山病 酸素欠乏症 紫外線障害	発症機序と病態生理、観察と対応
6	まとめとテスト	質問に応じ、必要あれば補足説明を行ったのち、 筆記試験を実施する。

科目名	環境障害・急性中毒学(急性中毒学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Poisoning			総時間数	12	単　位	環境障害と合わせて1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月	時　限	3.4

担当教員	中尾　隆美	実務者経験	医師、大学病院で救急医療に携わる

学習内容	中毒の病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置、搬送方法等を学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な　急性中毒について理解し、適切な対応について説明できる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	中毒総論	定義、疫学、分類、中毒物質 吸収･代謝･排泄、中毒作用、中毒の判断
2	中毒総論	中毒物質の推定、安全確保 中毒物質等の無保存、緊急度･重症度の判断 医療機関での診療、中毒情報センター
3	中毒各論	医薬品中毒、乱用薬物、農薬中毒
4	中毒各論	工業用品中毒 ガス中毒
5	中毒各論	急性エタノール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒 乱用薬物、現場対応と搬送
6	まとめと試験	

科目名	シミュレーション実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	316	単　位	7
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	喜代平　要一 金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	基本を応用し、現場活動を学ぶ。
到達目標	外傷処置、特定行為の実習を学び、想定訓練に活かせる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第10版　　出版社（へるす出版）　、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	JPTEC、救急救命処置Ⅱはテストを実施する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
2	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省
3	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
4	1年実習 復習	想定患者対応シミュレーション(3事例:3グループ)評価と反省脳神経解剖復習含む
5	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション　窒息、外傷、意識障害等　グループ演習
6	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション　窒息、外傷、意識障害等　グループ演習
7	1年実習 復習	脳神経解剖再確認想定患者対応シミュレーション　窒息、外傷、意識障害等　グループ演習
8	1年実習 復習	脳梗塞の種類と病態、前駆症状など復習想定患者対応シミュレーション　(3事例　3グループ)
9	気道の確保 声門上ディバイス	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
10	気道の確保 声門上ディバイス	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
11	声門上ディバ イスによる対応	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
12	声門上ディバ イスによる対応	＊声門上ディバイス(ラリンゲアルマスク、ラリンゲアルチューブ、コンビチューブ、スミウエイチューブ、アイジェル)の使用方法説明とグループ実習
13	声門上ディバ イスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
14	声門上ディバ イスによる対応	事例として流れを通じ、一つ一つの基本技術も確実にする
15	窒息患者(声門上ディバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下･硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
16	窒息患者(声門上ディバイス対応)	出血によるホルモン分泌反応、圧挫症候群、出血量推定、脳ヘルニア所見と各種の脳ヘルニア、硬膜下･硬膜外血腫、脊髄不全損傷のタイプ、四肢の急性阻血症状など
17	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習

18	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
19	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
20	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
21	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
22	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
23	窒息患者(声門上ディバイス使用)	スピードを求めず確実性。
24	窒息患者(声門上ディバイス使用)	スピードを求めず確実性。
25	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
26	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
27	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
28	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
29	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
30	窒息患者(声門上ディバイス使用)	グループ実習
31	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
32	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
33	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
34	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
35	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
36	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
37	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
38	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
39	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
40	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
41	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
42	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
43	気管挿管	気管挿管講義
44	気管挿管	気管挿管講義
45	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
46	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
47	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル

48	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
49	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
50	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
51	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
52	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
53	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
54	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
55	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
56	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル
57	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
58	窒息患者(声門上ディバイス)	異物除去プロトコル声門上気道デバイスプロトコル試験
59	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
60	静脈路確保	静脈路確保の目的資器材一式の取り扱い説明
61	気管挿管	気管挿管実技
62	気管挿管	気管挿管実技
63	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
64	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認 模擬血管穿刺の実施
65	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
66	静脈路確保	資機材一式の取り扱い再確認模擬血管穿刺の実施
67	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
68	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
69	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順　配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
70	静脈路確保	輸液作成から静脈路確保の手順　配布輸液作成から模擬血管穿刺の実施
71	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
72	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
73	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
74	静脈路確保	輸液作成から模擬血管穿刺の実施
75	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
76	静脈路確保デバイスJPTEC	反復訓練
77	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練

78	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
79	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
80	静脈路確保 薬液投与	輸液の目的、対象傷病者、薬品についてグループ学習 輸液路確保、薬液投与の訓練
81	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
82	徽章授与式演習	徽章授与式演習の担当決定各担当グループで演習
83	徽章授与式演習	各グループで演習
84	徽章授与式演習	各グループで演習
85	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学（9時から11時）
86	府立消防学校 見学	大阪府立消防学校第104回初任教育実科査閲見学（9時から11時）
87	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
88	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
89	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
90	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
91	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
92	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
93	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
94	礼式訓練 輸液路確保、薬液投与	礼式訓練/輸液路確保/薬液投与練習と実技テスト
95	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
96	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
97	特定行為	静脈路確保実技テスト
98	特定行為	静脈路確保実技テスト
99	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
100	徽章授与式演習	シミュレーション打ち合わせ、演習
101	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
102	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
103	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
104	特定行為	訓令礼式静脈路確保実技試験
105	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
106	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
107	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡

108	特定行為	静脈路確保実技試験ビデオ喉頭鏡
109	気管挿管	気管挿管実技、試験
110	気管挿管	気管挿管実技、試験
111	徽章授与式 演習	淀川河川敷にて礼式訓練
112	徽章授与式 演習	淀川河川敷にて礼式訓練
113	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
114	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
115	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
116	特定行為	ビデオ喉頭鏡各グループ実技演習
117	演習	徽章授与式訓練
118	演習	徽章授与式訓練
119	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
120	観察	血圧測定・脈拍高研人形での観察ストレッチャー使用方法
121	基礎技術 復習	ストレチャーの扱いバイタルサイン測定（脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧）
122	基礎技術 復習	ストレチャーの扱いバイタルサイン測定（脈拍、頸静脈怒張、呼吸音、心音、血圧）
123	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
124	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
125	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
126	基礎技術 復習	バイタルサイン（血圧測定）三角巾ロープ
127	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
128	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
129	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
130	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、ストレチャー扱い、
131	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
132	基礎技術 復習	バイタルサイン測定、心電図測定気管挿管、血糖測定
133	POT	バイタル～病態を読み取る
134	POT	バイタル～病態を読み取る
135	POT	バイタル～病態を読み取る
136	POT	バイタル～病態を読み取る
137	解剖実習	大阪大学へ解剖実習

138	実習前研修	オリエンテーション、記録（チェックリスト・評価表・薬剤投与記録・実習記録）
139	実習前研修	各病院の説明(前年度同施設実習生代表が入ってのグループミーティング）
140	実習前研修	輸液について、ドレーン管理について
141	実習前研修	患者搬入・初療室の流れについて、初療室・ICU の１日の流れについて、　重症患者の観察、救急での検査・器材・薬品、救急カートなど
142	実習前研修	実習の計画(初日の実習目標・実習項目を挙げ、それについての予習）記録について考察の考え方
143	実習前研修	十二誘導心電図の測定法
144	実習前研修	気管内吸引・気管チューブの固定、カフ圧の理解・測定など
145	実習前研修	フィジカルアセスメント
146	実習前研修	静脈ルート（血管の選択、皮膚消毒、穿刺、固定法など)血糖測定 静脈ルート(ルート作成、三方活栓の使用法・エピネフリン・ブドウ糖溶液の投与法など）
147	実習前研修	感染予防（病院の清潔管理・清潔操作・　手洗い方法、手指消毒法、）　時間が余れば、ガウンテクニック・グローブ着脱など
148	実習前研修	車椅子の使用法、ベットでの患者搬送　（時間があれば、患者移動法、シーツ交換、清拭、体位交換）
149	実習前研修	集中治療における酸素療法の選択（高、低流量システム）
150	実習前研修	〃
151	実習前研修	血液浄化療法の特徴、実際の使用法について
152	実習前研修	〃
153	実習前研修	体外循環療法の特徴、実際の使用法について
154	実習前研修	〃
155	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
156	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
157	病院実習レポート	病院実習のレポート作成
158	病院実習レポート	病院実習のレポート作成

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	46	単　位	1
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	搬送法	メインストレチャーの曳行
2	搬送法	メインストレチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
6	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
7	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
8	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
9	観察	救急自動車内での観察
10	観察	救急自動車内での観察
11	処置	救急自動車内での処置
12	処置	救急自動車内での処置
13	処置	救急自動車内での処置
14	処置	救急自動車内での処置
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

18	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
19	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
20	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
21	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
22	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
23	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

科目名	保健・体育学Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	通年	曜　日	金	時　限	1･2･3･4

担当教員	上原　悟	実務者経験	2006年4月から株式会社ヘルスアンドフィットネス所属 チームスポーツ(大学・高校)民間FC・公共・企業フィットネス施設などで トレーニング指導

学習内容	トレーニング科学に基づき、正しいトレーニング知識・技術を習得し、様々な体力要素の向上を目指す
到達目標	就職に関する体力試験に向けて、必要な体力を向上させ合格を目指す

準備学習 時間外学習	
使用教材	
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	オリエンテーション	紹介・体力・W-UP・C-Dについて
2	体力測定・評価	立ち幅跳び・握力・背筋力・SST・腹筋・腕立て
3	体力測定・評価	長距離・持久走
4	パワー種目	立ち幅跳びなどのパワー系種目のプログラムデザイン
5	筋力系種目	筋力アップのためのプログラムデザイン
6	筋持久力系種目	筋持久力アップのためのプログラムデザイン
7	アジリティー系種目	アジリティーアップのためのプログラムデザイン
8	総合トレーニング	2階実習室・外部公園での筋力・パワー
9	総合トレーニング	筋持久力・持久走トレーニング
10	総合トレーニング	
11	総合トレーニング	
12	総合トレーニング	
13	総合トレーニング	
14	体力測定・評価	立ち幅跳び・握力・背筋力・SST・腹筋・腕立て
15	体力測定・評価	長距離・持久走　16～総合トレーニング

科目名	小児救急疾患			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pediatric Emergencies			総時間数	32	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月	時　限	3･4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	小児・新生児疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に理解できる。
到達目標	小児・新生児の特性と分類、生理学的特長、観察と判断・応急処置と搬送法、小児に特有な救急疾患について理解し説明ができる。

準備学習 時間外学習	テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。過去問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	染色体異常・先天異常	染色体異常・先天異常　の特徴を理解する
2	新生児	新生児疾患とその疾患を理解する
3	代謝疾患	糖尿病、ケトアシドーシス、その合併症の病態を理解する
4	内分泌疾患	副腎疾患、小児の甲状腺疾患を理解する
5	免疫・アレルギー	アレルギーのしくみとその疾患について知る
6	膠原病　川崎病	膠原病や川崎病とその病状を理解する
7	呼吸器疾患	喘息やクループへの対応方を知る
8	感染症　1	代表的なウイルス感染症を理解する
9	感染症　2	代表的な細菌感染症を理解する
10	循環器疾患	先天性心疾患を知る
11	血液・腫瘍疾患	小児の白血病、貧血、固形腫瘍を理解する
12	消化器疾患	新生児から小児の消化器疾患を理解する
13	神経疾患　1	水頭症やてんかん
14	神経疾患　2	熱性痙攣への対応、その他の痙攣
15	小児の成長	小児の成長の特徴を理解する
16	小児の成長	まとめ

科目名	高齢者救急疾患			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Geriatric Emergencies			総時間数	16	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	1･2

担当教員	金村　諭司	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	高齢社会となり、増加し続ける高齢者の救急搬送に対応できるように高齢者の特徴等を学習する。
到達目標	高齢者の身体所見の特徴と特有の疾患を理解し、説明することができ、国家試験において一般問題だけではなく、症例問題にも十分に対応できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの実施
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	高齢者の特徴	加齢による身体機能の変化について
2	高齢者の特徴	高齢者の特徴からの現場活動での注意点
3	高齢者に特有の疾患	脳血管障害とそれに伴う症状
4	高齢者に特有の疾患	認知症（アルツハイマー病など）とそれに伴う症状
5	高齢者に特有の疾患	肺炎、COPDとそれに伴う症状
6	高齢者に特有の疾患	虚血性腸炎、前立腺肥大症、廃用症候群とそれに伴う症状
7	高齢者に特有の疾患 外傷	骨粗鬆症、脊椎圧迫骨折、四肢の骨折
8	まとめ	

科目名	シミュレーション実習Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	360	単　位	8
学　年	3	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	金村　諭司 喜代平　要一	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定 29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	基礎を振り返り、想定訓練を行う。
到達目標	現場対応が十分にできる。また国家試験の症例問題に十分に対応できる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第9版または10版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	規律訓練	各個訓練、行進要領
2	規律訓練	各個訓練、行進要領
3	規律訓練	各個訓練、行進要領
4	規律訓練	各個訓練、行進要領
5	想定訓練	心筋梗塞･意識障害･呼吸不全･腰痛等
6	想定訓練	心筋梗塞･意識障害･呼吸不全･腰痛等
7	想定訓練	心筋梗塞･意識障害･呼吸不全･腰痛等
8	想定訓練	心筋梗塞･意識障害･呼吸不全･腰痛等
9	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
10	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
11	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
12	ガイダンス	就職合同ガイダンス準備
13	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアーセンター
14	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアーセンター
15	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアーセンター
16	ガイダンス	ガーデンパレスにて合同就職ガイダンス各消防及び民間対応:救急救命士学科教員キャリアーセンター
17	規律訓練	各個訓練

18	規律訓練	各個訓練
19	規律訓練	各個訓練
20	規律訓練	各個訓練
21	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
22	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
23	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
24	想定訓練	心筋梗塞・意識障害・呼吸不全・腰痛等
25	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
26	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
27	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
28	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
29	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
30	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
31	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
32	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
33	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
34	救急救命処置	チューブ
35	救急救命処置	チューブ
36	救急救命処置	チューブ
37	救急救命処置	チューブ
38	想定訓練	シミュレーション
39	想定訓練	シミュレーション
40	想定訓練	シミュレーション
41	想定訓練	シミュレーション
42	想定訓練	シミュレーション
43	想定訓練	シミュレーション
44	想定訓練	シミュレーション
45	想定訓練	シミュレーション
46	想定訓練	シミュレーション
47	想定訓練	シミュレーション

48	想定訓練	シミュレーション
49	想定訓練	シミュレーション
50	想定訓練	シミュレーション
51	想定訓練	シミュレーション
52	想定訓練	シミュレーション
53	想定訓練	シミュレーション
54	想定訓練	シミュレーション
55	想定訓練	シミュレーション
56	想定訓練	シミュレーション
57	想定訓練	シミュレーション
58	想定訓練	シミュレーション
59	想定訓練	シミュレーション
60	想定訓練	シミュレーション
61	想定訓練	シミュレーション
62	想定訓練	シミュレーション
63	想定訓練	シミュレーション
64	想定訓練	シミュレーション
65	想定訓練	シミュレーション
66	想定訓練	シミュレーション
67	想定訓練	シミュレーション
68	想定訓練	シミュレーション
69	想定訓練	シミュレーション
70	想定訓練	シミュレーション
71	想定訓練	シミュレーション
72	想定訓練	シミュレーション
73	想定訓練	シミュレーション
74	想定訓練	シミュレーション
75	想定訓練	シミュレーション
76	想定訓練	シミュレーション
77	想定訓練	シミュレーション

78	想定訓練	シミュレーション
79	想定訓練	シミュレーション
80	想定訓練	シミュレーション
81	想定訓練	シミュレーション
82	想定訓練	シミュレーション
83	想定訓練	シミュレーション
84	想定訓練	シミュレーション
85	想定訓練	シミュレーション
86	想定訓練	シミュレーション
87	想定訓練	シミュレーション
88	想定訓練	シミュレーション
89	想定訓練	シミュレーション
90	想定訓練	シミュレーション
91	想定訓練	シミュレーション
92	想定訓練	シミュレーション
93	想定訓練	シミュレーション
94	想定訓練	シミュレーション
95	想定訓練	シミュレーション
96	想定訓練	シミュレーション
97	想定訓練	シミュレーション
98	想定訓練	シミュレーション
99	想定訓練	シミュレーション
100	想定訓練	シミュレーション
101	想定訓練	シミュレーション
102	想定訓練	シミュレーション
103	想定訓練	シミュレーション
104	想定訓練	シミュレーション
105	想定訓練	シミュレーション
106	想定訓練	シミュレーション
107	想定訓練	シミュレーション

108	想定訓練	シミュレーション
109	想定訓練	シミュレーション
110	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
111	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
112	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
113	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
114	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
115	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
116	北摂救命士会	症例検討会参加
117	北摂救命士会	症例検討会参加
118	北摂救命士会	症例検討会参加
119	北摂救命士会	症例検討会参加
120	想定訓練	シミュレーション
121	想定訓練	シミュレーション
122	実技基礎試験	観察
123	実技基礎試験	観察
124	想定訓練	シミュレーション
125	想定訓練	シミュレーション
126	想定訓練	シミュレーション
127	想定訓練	シミュレーション
128	想定訓練	シミュレーション
129	想定訓練	シミュレーション
130	想定訓練	シミュレーション
131	想定訓練	シミュレーション
132	想定訓練	シミュレーション
133	想定訓練	シミュレーション
134	想定訓練	シミュレーション
135	想定訓練	シミュレーション
136	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション
137	ＪＰＴＥＣ	シミュレーション

138	想定訓練	シミュレーション
139	想定訓練	シミュレーション
140	想定訓練	シミュレーション
141	気管挿管訓練	シミュレーション
142	気管挿管訓練	シミュレーション
143	静脈路確保	シミュレーション
144	静脈路確保	シミュレーション
145	静脈路確保	シミュレーション
146	静脈路確保	シミュレーション
147	静脈路確保	シミュレーション
148	想定訓練	シミュレーション
149	想定訓練	シミュレーション
150	想定訓練	シミュレーション
151	想定訓練	シミュレーション
152	想定訓練	シミュレーション
153	想定訓練	シミュレーション
154	想定訓練	シミュレーション
155	想定訓練	シミュレーション
156	想定訓練	シミュレーション
157	想定訓練	シミュレーション
158	想定訓練	シミュレーション

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	45	単　位	1
学　年	3	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	1･2･3･4

担当教員	金村　諭司	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。 地域の消防本部にて同乗実習を行う。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	搬送法	メインストレチャーの曳行
2	搬送法	メインストレチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	観察	救急自動車内での観察
6	処置	救急自動車内での処置
7	処置	救急自動車内での処置
8	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
9	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
10	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
11	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
12	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
13	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
14	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

18	同乗実習	消防本部での同乗実習
19	同乗実習	消防本部での同乗実習
20	同乗実習	消防本部での同乗実習
21	同乗実習	消防本部での同乗実習
22	同乗実習	消防本部での同乗実習
23	同乗実習	消防本部での同乗実習

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	20	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水	時　限	4

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	筋骨格系・皮膚系、熱傷電撃症化学損傷・異物溢頚刺咬傷、環境障害、の　総合的理解　と　最終的習得
到達目標	救急救命士として求められる知識を総合的に習得する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総合救急医療１	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応，　脊椎疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
2	総合救急医療２	関節疾患、筋疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	総合救急医療３	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
4	総合救急医療４	皮膚・軟部組織の感染症、アレルギー疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法の理解　と　習得
5	総合救急医療５	気道異物・消化管異物・耳目鼻性器異物・縊頸　の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
6	総合救急医療６	哺乳類・爬虫類・節足動物・海洋生物による咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　　理解　と　習得
7	総合救急医療７	熱傷・化学損傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　　理解　と　　習得
8	総合救急医療８	電撃症・雷撃症・溺水　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
9	総合救急医療９	熱中症・偶発性低体温症・高山病　の　発生数の特徴　発生機序　分類　観察　処置　の　理解　と　習得
10	総合救急医療１０	減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害　の　症状　分類　観察　処置　の　理解　と　習得

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	40	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火土	時　限	3･4

担当教員	呉　教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
2	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
3	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
4	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
5	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
6	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
7	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
8	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
9	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
10	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	48	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木	時　限	3･4

担当教員	岸　正司	実務者経験	病院等で救急医療に30年携わる

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定第10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
2	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
3	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
4	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
5	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
6	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
7	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
8	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
9	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
10	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
11	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
12	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
13	泌尿・生殖・内分泌疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
14	泌尿・生殖・内分泌疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
15	血液・免疫・アレルギー疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
16	血液・免疫・アレルギー疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
17	その他	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
18	その他	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
19	意識障害	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
20	意識障害	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
21	外傷関係	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
22	外傷関係	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
23	中毒	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
24	中毒	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	12	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	3･4

担当教員	濵田　智子	実務者経験	病院等で歯科医師として診療・治療に10年以上携わる

学習内容	専門基礎分野の解説、標準テキストの内容、自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定第10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	適宜小テストを実施

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	炎症	定義・原因・分類に沿って復習し、自己の理解度を上げていくことが出来る。
2	免疫	防御機能・免疫の分類・免疫の流れに沿って復習し、自己の理解度を上げていくことが出来る。
3	感染、生化学	感染症分類・TCAサイクル・血液の分類・静止電位と活動電位
4	代謝系	糖尿病について
5	泌尿器系 酸塩基平衡	ネフロンについて、アルカローシス・アシドーシス
6	中毒	中毒の原因・種類 自己免疫疾患など、学生の苦手分野の総復習

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	50	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	1.2.3.4

担当教員	金村　諭司 喜代平　要一 矢野　博之	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定 29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	第1回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
2	第1回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
3	第1回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
4	第2回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
5	第2回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
6	第2回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
7	第3回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
8	第3回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
9	第3回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
10	第4回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
11	第4回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
12	第4回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
13	第5回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
14	第5回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
15	第5回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
16	第6回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
17	第6回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
18	第6回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
19	第7回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
20	第7回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
21	第7回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
22	第8回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
23	第8回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
24	第8回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
25	第9回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
26	第9回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習

27	第9回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
28	第10回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
29	第10回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
30	第10回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
31	第11回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
32	第11回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
33	第11回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
34	第12回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
35	第12回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
36	第12回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
37	第13回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
38	第13回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
39	第13回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
40	第14回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
41	第14回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
42	第14回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
43	第15回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
44	第15回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
45	第15回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
46	第16回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
47	第16回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
48	第16回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
49	第17回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
50	第17回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
51	第17回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど